

上之坊年間行事

(コロナ禍で延期などがあります)

- 二月 五日 厄除星祭り
- 二月 二七日 玄冬会
- 三月 八日 四国巡拝
- 三月 十日 (愛媛三日)
- 三月 十九日 得度式
- 三月 二十日 彼岸勤め
- 三月 二三日 (四日間)
- 五月 十日 真明寺例祭
- 五月 十一日 高野山参拝
- 五月 十二日 (二日)
- 七月 九日 施餓鬼法会
- 七月 三十一日 お盆勤め
- 七月 十五日 (十六日間)
- 九月 十七日 彼岸勤め
- 九月 二十日 (四日間)
- 十一月 十二日 土砂加持
- 十一月 十五日 四国巡拝
- 十二月 十七日 (香川三日)
- 十二月 四日 玄冬会
- 十二月 三十一日 除夜鐘

※毎月第四土曜日護摩祈願

真言宗の基礎知識(その四十五)

(弘法大師)

仏前勤行次第の中、大師宝号の前に唱える文に「高野の山に身をとどめ 救いのみ手を垂れ給う おしえのみ親に帰依し奉る 願わくは無明長夜の闇路を照らし 二仏中間(にぶつちゆうげん)の我らを導きたまえ」とあります。

この「二仏中間」とは、今から二千五百年の昔、インドでこの世から入滅されたお釈迦さまと、今から五十六億七千万年先、この世に弥勒菩薩が出現されるまでの間、この世に仏様がいない時期を指します。

死んで、仏様の世界に行けば成仏できてもこの世の苦しみを救う術(すべ)として、お大師さまは入定された後も、日々に処々に心を寄せ、私達と同じように弥勒菩薩がこの世に現れるのをお待ちになつています。だから、この世の中で苦しい時、「高野山で深い瞑想を続けている弘法大師さま、よろしくお願いいたします。私達が歩む道を間違えないようお導きください。」と願ひ御宝号「南無大師遍照金剛」を唱えるのです。

四国巡拝と高野山参拝

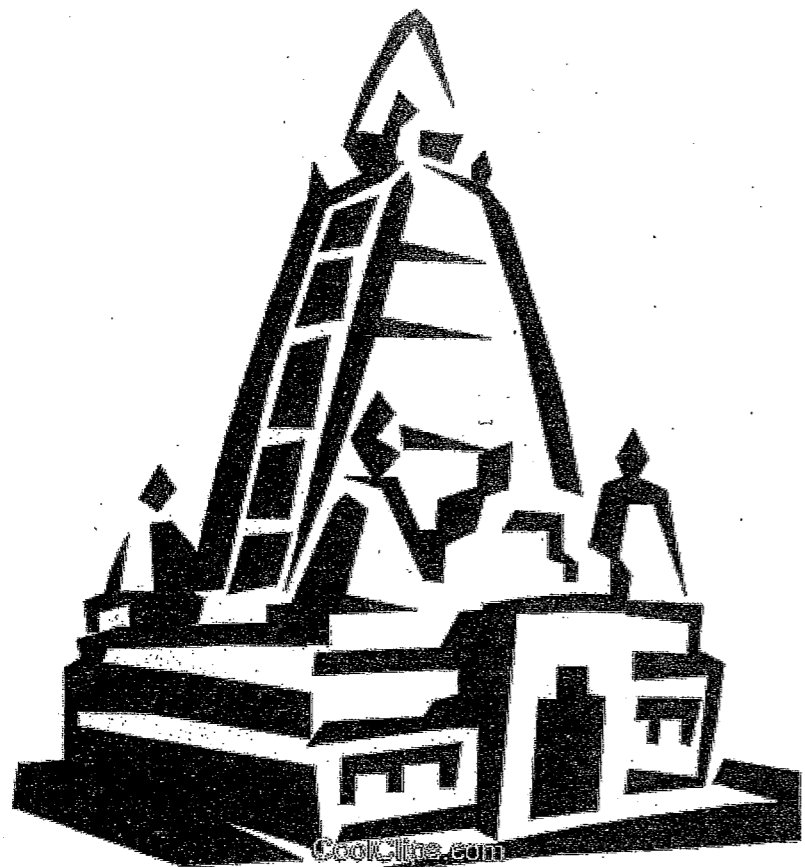
昨年コロナ禍での参拝ですが三月の四国巡拝と五月の高野山は出来ず、十一月の四国霊場高知の巡拝のみできました。今年三月と十一月に四国を、五月に高野山へのお参りを検討しております。

まず三月八日から十日までの日程で愛媛の霊場を、また五月十一日十二日高野山に登りたいと思います。いずれもコロナ禍の影響が少なくなっていることが前提です。

催行するかしないかの決定はどちらも、ちょうど一ヶ月前に参拝希望者のご意見と人数で判断いたします。参拝のご希望ある方はそれまでにお知らせください。ご参加の金額は未定です。

上之坊だより

令和4年1月14日  
第92号  
福山市大門町大門325  
電話 (084) 941-1031  
fax (084) 941-1168



此の華 今年開くと道うことなかれ

将に知るべし 往歳 下種の因

早春に花が咲いたのを見て「今年も綺麗に咲いた、と思うのではなく、誰かが種を蒔いた原因があることを思わなければならぬ」と弘法大師はお書きになっています。

大樹に咲く花であれば昔々今は亡き人が蒔いた種であったかも知れませんが、野の花であれば風や鳥が種を運んだのかもしれない。花は花の力で咲くのではなく、種を蒔くという主因が必要になります。

お大師さまはこの詩の中で

仏教の教え、因(原因)と縁(諸々の組み合わせ)が合さり「果(結果)」につながることを説かれています。

花は種を植え、水や陽光に恵まれ、災害で枯れる事もなく、今年咲くことができたように、私達も「過去から現在まで多くの因縁に支えられて今がある事」に思いを廻らせることが大切です。

詩は終わりに「いづくんぞ知らん、近日早春に会うと」とあります。春になればあなたもこの花に出会うのです。

### 息災護摩祈願

上之坊では本尊薬師如来の御誓願を頼りにし、毎月第四土曜日の午後一時三十分より災難を除く護摩を焚いております。

特に厄年や凶年の方の厄除け、あるいは心身健康や病氣回復の願いなど、息災（平穩無事であること）をお祈りする大変良い機会になつております。是非一度お参りをされるようお勧めします。

祈願をご希望の方には五千円又は三千円の木札をお作りして、ひとりひとり護摩壇のすぐ横で厳重にご祈願いたしますので、出来れば前日までにご参加をご連絡ください。代理の人での御祈願も可能です。なお、ご家族などで付き添つてお越しただければ、御祈願に参加できます。

また、星祭りの「木札」をお持ちの方は重ねて祈願できますので力が増すと思えます。

### 年忌表（令和四年）

一周忌	令和三年
三回忌	令和二年
七回忌	平成二八年
十三回忌	平成二二年
十七回忌	平成一八年
二五回忌	平成十年
三三回忌	平成二年
五十回忌	昭和四八年

### 総代会・世話方会開催

定例の上之坊の総代会を一月三十日（日）午後一時から行います。また同日午後三時から総代会・世話方の合同会議を行います。

内容として、前回推薦された総代・世話方の顔合せ、六地藏横の合祀墓の建設や、星祭り以降の行事の開催方法についてご相談願います。

### 上之坊行事

コロナ禍の中、新年を迎えました。年初めからオミクロン株が流行しはじめ、大問題になっています。

情勢は常に変化して、樂觀論と悲觀論の間を行き来しており今後どうなるのかとても判断が難しくなっています。

コロナ禍を無視することも、逆にすべてを中止することも、両方不正解と思えます。

いまのところ春以降の行事は予定通り実施を考え、星祭りは福引と甘酒のお接待を縮小し、法要の方法は総代会などで考えていただきたいと思います。

また状況によっては、玄冬会や得度式の延期も検討されるかもしれません。

### 厄除星祭二月五日 午後一時半

人に良い年と悪い年があるのは、その人が持つて生まれた星とめぐり来る星との位置と関係によって起こると言われています。

星祭りとは年の節目である節分の頃に、その年の当たりの星を奉つて、悪い位置の星の人には悪事や災難を免れるように、また良い位置の星の人には一層良くなるようにと祈る行事で、真言宗では千三百年を越える昔から続いている行事です。

今年も二月五日（土）午後一時半から、護摩（ごま）をたき、節分の厄除けの祈願をいたします。しかしコロナ禍の状況によっては内容が例年とは変更になることも予想されます。出来るだけ大勢の皆様にお越しいただきたいのですが、健康に十分ご留意いただきお参りください。また、福引できる「お供え」について昨年と同様分配が困難なため、お控えいただけますようお願いいたします。またお参りの時には必ずマスクをご着用ください。

なお、「おふだ」をご希望の方は前日までにお申し込みください。お一人につき三百円です。また、大きなおふだをご希望の方には七百円の金札と千五百円の小木札、三千円の大木札の三種類があります。詳しくは別紙をご覧ください。

今年の厄年は、数え年で、男性は平成十年生まれの三十五歳、昭和五十六年生まれ、四十二歳、昭和三十七年生まれ、六十一歳と、女性七十七年生まれ、六十一歳です。男性の四十二歳と女性の三十三歳を大厄と言います。その前後の年を前厄後厄と言います。厄年の方は毎月第四土曜日に護摩祈願がありますので、今回の星祭りと併せてご利用ください。

### 納骨堂のご利用

上之坊本堂横、多宝塔との間に納骨堂ができて三年が経過しました。

納骨堂のご利用は、お堂内で個別のお預かり期間が七回忌までは十万円・十七回忌まで十五万円・三十三回忌まで二十万円・五十回忌で二十五万円となっており、その後は合祀墓で永代のお預かりをいたします。

毎年の維持費などは一切不要で、合祀墓の使用料も含まれての奉納料です。（なお、お名前などを刻んだプレートをご希望の方は別に五万円を奉納願います）詳しくはご相談をお願いします。

なお、今年中には上之坊正門前六地藏後方に合祀墓の建立が予定されています。

### 位牌堂のご利用

上之坊本堂の西側に隣接して今から十五年前の平成十九年に造られた位牌堂があります。本堂内陣のすぐ東に昔からの位牌檀がありますが、西側の位牌堂は後継者がいないお宅の位牌などを永代供養を含めてお預かりをする為の位牌堂です。

仕切りをして各家ごとにご回向をし、ご希望に応じて年忌法要をいたします。またお墓が出来るまでの短期間であれば、お骨もお預かりできます。（長期間になれば納骨堂にてお預かりします）

一定期間（三十三年）後は本堂内の位牌檀に移動して永代に奉安を続けます。供養やお位牌の奉安が必要な方はご相談ください。